

中小企業モデルケース 経産省が選出

# 県内4社 業務改善評価

経済産業省中小企業庁が生産性向上や需要獲得に取り組み全国の中小企業などを選定する今年の「はばたく中小企業・小規模事業者300社」に、県内は4社が選ばれた。経営資源を有効活用して生産性の向上に取り組み、積極的に海外展開したりしている企業が対象。人手不足が指摘される状況で取り組んだ職場環境の改善などが評価された。

〈渡辺真紗美〉

中小企業庁がモデルケースとして広く周知しようと、16年から毎年実施。県内から選ばれた4社は、クア・アンド・ホテル(甲府市丸の内2丁目、三森中社長)、富士レークホテル(富士河口湖町船津、井出泰清社長)、やおき(大月市大月町花咲、藤本恭司社長)。

クア・アンド・ホテルは温泉と宿泊を融合した新しいビジネスモデルを展開。顧客の動きと従業員の業務内容や動きを独自に分析し、サービスや業務の効率化に取り組んでいる点が評価された。富士

レークホテルは主に製造業が実践する業務の改善活動に取り組み、マンパワーを有効活用している点が認められた。

やおきは車の板金塗装業から異業種の特高圧洗浄事業に参入し、全国44社とフランチャイズ展開している点が評価された。はくばくは食の安全を重視し、1998年に豪州に設けた工場を拠点に海外向けに販路を拡大している点が認められた。

300社の具体的な取り組みは、中小企業庁ホームページで紹介している。

## 「中抜け勤務」社員を減 富士レークホテル

富士レークホテルは、宿泊客の対応で忙しい朝と夜に勤務し、日中に長時間の休憩を取る「中抜け」を減らし、一定時間を通して勤務する社員を増やした。若手社員の

定着を目指し、業界特有の勤務形態を見直した働き方改革の一環。パートタイム勤務も週1回、約2時間から可能として人材確保に努めている。



業務を終え、午後4時にタイムカードを押す。富士河口湖町船津の富士レークホテル

同ホテルなどによると、宿泊施設の接客担当は、早朝に出勤し、宿泊客の朝食の配膳やチェックアウトを担当。4時間近い休憩時間を入れ、チェックインの対応、夕食や宴会の配膳を行うのが一般的とされる。宿泊・飲食業界は新卒者の入社3年後の定着率が低調とされ、人材確保が課題となっていた。

同ホテルは一日の勤務を午前6時～午後4時、午前8時～午後6時、正午～午後0時(寺)の三つに分

## 業界特有の形態見直し

「休憩時間でも仕事」という意識で仮眠しかできなかった。通し勤務が増えて拘束時間が短くなり、友人に会ったり、家族と過ごしたりできて生活にメリハリが出たと歓迎する。

パート勤務も副業したい人や、家族の介護などで長時間働けない人ら約20人が短時間勤務をしている。1人の従業員が複数の部署の業務ができる「マルチジョブ」にも取り組んでいる。

井出社長は「人件費率は上がるが、従業員が定着してサービスの質が向上すれば経営がプラスになる」と見ている。

入社8年目の林君歌さん(26)は「休憩時間でも仕事」という意識で仮眠しかできなかった。通し勤務が増えて拘束時間が短くなり、友人に会ったり、家族と過ごしたりできて生活にメリハリが出たと歓迎する。